

# 一場 村祭り



オープニング: 村の太鼓衆が迫力ある演奏で祭りとミュージカルを盛り上げる。



帰りの遅い孫娘を心配して迎えに来た心優しき祖母。「私さ似て、美人だから、ほんとに心配だ」とユーモアあふれるせりふで会場の笑いを誘う。



心の美しい娘、キヨに恋をした赤鬼の和平。他の村人と違い、赤鬼である自分にも優しく接してくれるキヨに対して、「なんだが 心があったけえ」と、優しく想いを歌い上げる。



村の男たちの帰りが遅いと心配する女たち。「鬼が出だ〜！」と慌てて帰って来た夫に対して「ほんとに旦那とっかえてえ〜」とあきれ果て、息子に「まあまあ母ちゃん」となだめられる。



この物語の案内役である噺家。「悪者で嫌われ者の鬼が、人間のおなごを助けるとはなんとも信じられない話。さてさてこれからどうなるのでしょうか」と、観客の興味を物語に惹き付ける。



## 二場 赤鬼の家

キヨと表を堂々と歩くために、まずは他の村人に認められようと作戦を立てる赤鬼。その作戦を知り、親友である青鬼の喜助やもののけが「仲良くなれるわけがねえ！やめろ、やめろ！」と必死で説得する。



道に迷った村人が赤鬼の家と知らずに通りかかるシーン。村人と仲良くなりたいがために、「優しい鬼の家です。どなたでもおいでください」と家の表に貼り紙をしたものの、かえって警戒され、逃げられてしまう。



劇中歌「だまされるな」に合わせて踊る村の踊り手。「心の優しい鬼なんてそんなのいるわけない」と怯える村人と、空回りを繰り返す和平との心の距離感を、明るいダンスで皮肉交じりに表現する。

# 三場 青鬼の決意



人間と仲良くなりたくてもうまいかず、苦悩する和平を見かねた喜助が、親友を助けるために一芝居打つことを提案。その驚きの内容に「そんなごどでぎね！」と反対する和平。



なかなか作戦を実行することに乗ってこない和平を「正攻法でいってもだめだ。この方法しかねえ」と説得する喜助。結局和平もしぶしぶ承諾し、いよいよ「奇策」を実行に移すことに。「鬼に、金棒〜！」

# 四場 青鬼の芝居



和平たちが村人と仲良くなるために作戦を練っているその裏で、村人たちの間では「しののめ山さ鬼が出だどや。おっかねえ、おっかねえ」と、悪い噂が広まっていた。



喜助が考えた「奇策」とは、喜助自らが悪役となり、村人の見ている前で和平に自分を退治させることだった。喜助は早速作戦を実行に移し、「うおおお、鬼だど〜！」と、村人の家を襲うのだった。



手はずどおり、喜助が村人を襲おうとしているところを止めに入る和平。「鬼同士が戦ってるど?!」目の前の光景に初めは混乱していた村人たちだったが、やがて「鬼さも、いい鬼いるんだな」と考えを改める。



喜助の作戦が見事成功し、村人たちに優しい鬼として受け入れられた和平。「福は内 鬼も内 鬼も人もねえ」姿、形は違っても、心と心でつながる喜びを、歌と踊りで表現した。



青鬼の村人襲撃事件から日も経ち、和平が村の一員としてすっかり受け入れられた様子が、村人たちの会話からも伺い知ることができる。

## 五場 大切なもの



平穏な日々が訪れた和平はお礼を言うために喜助の家を訪れる。しかしそこに喜助の姿はなく、一通の手紙が残されているのみだった。その手紙から、喜助が去った理由を知り、愕然とする和平。



喜助が去った真の理由は、自分と仲良くしているところを見られると、和平が村人たちに悪い鬼だと誤解されてしまうのではないかと危惧したためだった。喜助の真意を知り、悲しみに暮れる和平。いつもそばで応援してくれた喜助に対する感謝の気持ちと、帰ってきて欲しいという悲しみの気持ちを込め、祈る和平。



エンディング曲「大切なもの」——生徒たちが「自分にとって大切なものは何だろう？」と自身に問いかけながら作詞をした曲である。それぞれが自分にとって大切なものを思い浮かべながら歌い上げる。



「自分でぶつかる勇気 あきらめない気持ちもって」歌詞に刻まれているメッセージのとおり、ミュージカルまで一生懸命稽古に励んできた生徒たち。会場からは生徒たちに対する惜しみない拍手が送られた。



地域のミュージカルの先生や振り付けの先生、歌唱指導の先生たちのお力添えもいただいて完成させることができたミュージカル。来年の能代養護学校ミュージカルも、どうかご期待ください。